

# 第4回 日本臨床薬理学会 中国・四国地方会



テーマ：種を育てる

参加費 会員・非会員  
3,000円（学生無料）

会期 2019年7月6日（土）13:00-17:30

会場 徳島大学蔵本キャンパス大塚講堂  
徳島市蔵本町3丁目18-15

会長 楊河 宏章

徳島大学病院臨床試験管理センター

日本臨床薬理学会 中国・四国支部 webサイト <http://jscpt-cs.jp>

〒770-8503 徳島市蔵本町2丁目50-1

徳島大学病院臨床試験管理センター

第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会事務局（武智、中馬）

e-mail : [first-ec@tokushima-u.ac.jp](mailto:first-ec@tokushima-u.ac.jp)



# 第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会 —種を育てる—

2019年3月吉日

## 第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会の開催について

みなさまには益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会を2019年7月6日(土)に、「種を育てる」をテーマにして、徳島大学蔵本キャンパスの大塚講堂を会場に開催することとなりました。

今回のテーマを基に、特別講演には難治性神経疾患の治療法確立に一貫して取り組まれている梶先生から「ALSの治療薬医師主導(死亡)治験」として**研究者の情熱**についてご講演頂くこととなりました。

「種を育てる」ためには、研究者の情熱に加えて多くの因子が必要です。この観点から、シンポジウムについては2テーマを設定しています。まず、最初は**研究自身の適正性**を再考する意味で「適正な臨床研究推進のために」を設定しました。研究には**体制整備**が不可欠であり、第2テーマは「種を育てるための体制」としています。シーズから実用化までの流れを再認識し、今後われわれが進むべき方向性を考える場となれば幸いです。

さらに今回は、2つのシンポジウムの間にはポスターセッションを設定しました。「種を育てる」にはそれぞれのステップに關与するみなさまの現実的な取り組みが不可欠です。今回は試みとして、「優秀演題賞」を設定します。全体を俯瞰するような演題はもちろん歓迎ですが、日常の業務に直結するような演題を含めてふるってご応募くださいますようお願い致します。

みなさまのお力を頂き、参加される方々にとってお互いの顔が見える中で有用な情報が得られる地方会とするべく準備を進めて参ります。有意義な地方会となりますようどうぞよろしくお願い致します。

詳細は順次、日本臨床薬理学会中国・四国地方支部のホームページに掲載頂きますのでご確認ください。<http://jscpt-cs.jp/>

第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会会長  
楊河 宏章  
(徳島大学病院臨床試験管理センター)

# 第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会 プログラム（第2版）

2019年7月6日（土） 13:00-17:30

徳島市（徳島大学蔵本キャンパス大塚講堂）

会費 3000円（学生無料）

13:00	開会挨拶
13:05-14:00	特別講演 「ALSの治療薬医師主導（死亡）治験」 梶 龍児（国立病院機構宇多野病院長、徳島大学特命教授）
14:00-14:10	休憩
14:10-15:10	シンポジウム1 「適正な臨床研究推進のために」 1）研究者とともに歩む～支援・管理経験からの提案～ 近藤 智子（山口大学医学部附属病院臨床研究センター） 2）研究倫理コンサルタントとその育成 中馬 真幸（徳島大学病院臨床試験管理センター） 3）研究公正とその考え方 伊吹 友秀（東京理科大学理工学部）
15:10-15:40	休息、一般演題ポスター発表
15:40-17:10	シンポジウム2 「種を育てるための体制」 1）シーズ開発に向けた四国 TLO の活動 矢野 慎一（徳島大学研究支援・産官学連携センター） 2）鳥大発医療機器開発の挑戦 ～地域の企業とともに取り組む新しい 医工連携 古賀 敦朗（鳥取大学研究推進機構研究戦略室） 3）特色を生かした治験・臨床試験の実施-スケールメリットとボーダー レスな研究の取り組み 三邊 武彦（昭和大学医学部薬理学講座臨床薬理学部門） 4）シーズ実用化のための研究支援実施体制～岡山大学病院の場合～ 櫻井 淳（岡山大学病院新医療研究開発センター） 5）指定発言・臨床薬理研究振興財団とその活動 金田 豊正（公益財団法人臨床薬理研究振興財団）
17:10	優秀演題賞発表 表彰式 閉会挨拶 次期会長挨拶
17:30	終了

## 第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会 一般演題募集要項

今回の中国・四国地方会におきまして、一般演題を募集します。

今回のテーマは「種を育てる」であり、特に医薬品の実用化、臨床研究を支えるCRCや支援・管理担当の方々の現実的な取り組みに関する演題を歓迎します。

もちろん臨床薬理学の範疇のあらゆる内容に関する演題のご応募をお待ちしています。

発表形式はポスターのみで、当日15:10-15:40が一般演題ポスター発表となっています。

なお、本地方会への参加、発表により、取得できる単位は以下の通りです。

専門医・認定薬剤師更新者：参加10点、発表者5点、共同発表者2点

認定CRC受験者・更新者：参加10点、発表者5点、共同発表者2点

### 1、演題応募方法

#### 1) 発表者について

発表は日本臨床薬理学会会員に限りません。ただし共同演者には1名以上の会員を含め、会員については後述の抄録記載の発表者氏名にアンダーラインをお願いします。会員が含まれていない場合は不採用とさせていただきます。

また、この機会に日本臨床薬理学会への入会をご検討いただければ幸いです。

入会手続きは、<https://www.jscpt.jp/nyukai/index.html> をご覧ください。

#### 2) 抄録作成について

抄録は、演題、発表者氏名、発表者所属、本文の順にワードファイルで作成して下さい。

抄録本文は600字以内とし、原則【目的】【方法】【結果】【結論】の順に記載して下さい。

なお、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等を参照頂き、適用範囲に当たる演題に関しては倫理審査委員会の審査承認を得ている旨の記載など、適切な対応をお願いします。

初回受領以降、変更や修正は一切出来ません。頂いた原稿をコピー&ペーストにより抄録集に移行しますのでご了解下さい。

## 抄録見本

治験業務の病院内協働体制構築の試み

徳島 すだち1)、阿波 おどり1)、四国 太郎2)、中四 花子3)

徳島大学病院1)、四国病院2)、中四診療所3)

【目的】近年、臨床研究・治験をめぐる状況が大きく変化し、CRC (clinical research coordinator) の関与の多様化、役割の拡大が求められている。同時に特に治験の実施において、CRC への「過剰依存」と考えられるような状況もしばしばみられる。CRC の役割に立ち返り、治験責任・分担医師との関係の再構築、他の職員と協働で病院としての臨床研究・治験実施体制を構築するため、現状を把握することを目的とした。【方法】CRC に質問紙調査を行い・・・・・・・・・・ 【結果】・・・・・・・・・・ 【結論】・・・・・・・・・・

### 3) 演題応募について

ワードファイルで作成頂いた抄録を添付し、事務局までメールにて送信してください。

締め切りは [2019年5月31日金曜日 17:00 必着](#)です。

送信先 第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会事務局 [first-ec@tokushima-u.ac.jp](mailto:first-ec@tokushima-u.ac.jp)

(件名は、第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会演題申し込み、をお願いします)

メール受領時に、受領の旨の返信を、採用決定時にその旨の送信を致します。採用決定の送信は応募締め切り以降、7-10日程度を予定しています。連絡がない場合はお知らせ下さい。

恐縮ですが、演題の採否に関しましては会長に御一任下さい。

### 2、優秀演題賞

今回試行的に、[一般演題ポスター発表に関して優秀演題賞を設定](#)しました。

当日ポスター掲示が行われた演題を対象に、参加した中国・四国支部世話人の投票で選考を行い、17:20より発表と受賞者への授与式を行います。

選考結果は中国・四国地方支部事務局へ報告し、世話人会への情報提供や中国・四国地方支部のサイトへの受賞者掲載を実施する予定です。

演題応募の際、優秀演題賞へのエントリーを希望されない方はお知らせ下さい。

なお、極端に応募演題が少なく優秀演題賞の設定自体が不適切と考えられる場合は中止する場合がありますのでご容赦ください。